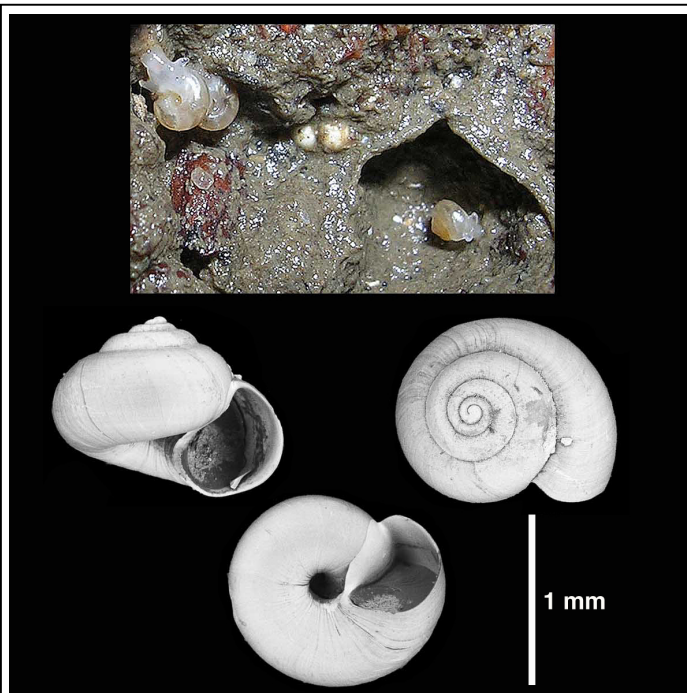


カハタレカワザンショウ *Assimineidae* gen. et sp.

【選定理由】

本種は和名だけが提唱された未記載種で、属位についても不明である(和田ほか, 1996; 福田, 2012)。県内では内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地内の転石下より採集された(木村・木村, 1999)。本来は内湾域の転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。その後の調査で、河和(三河湾)の砂礫が堆積した上部付近の埋没石の裏より5個体が採集された(早瀬・木村, 2017)。県内における生貝の記録は2例しかない。

本種は微小種でかつ特殊な環境に棲むので発見が難しい種ではあるが、県内での生息記録の少なさから、絶滅の可能性が高い種であると評価された。



南知多町河和, 2014年5月16日, 早瀬善正採集

【形態】

カワザンショウガイ科としては特異な形態で、螺塔が低く臍孔は大きく開く。殻径が約1.5 mm程度の微小種。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように現在まで確認された生息地は2ヶ所のみである。

【世界及び国内の分布】

現在まで日本でのみ発見されている。東京湾(小櫃川河口)・油谷湾~九州南部(川内川河口)に分布する(福田, 2012)。東海地方では英虞湾(河辺, 2000)でも生息が確認されている。

【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

本種は内湾から湾口部の河口域の特殊な生息環境に生息し、生息場所自体が護岸工事や埋め立てなどで容易に改変もしくは消失する可能性が高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯付近の環境を保全する。干潟の埋め立てをこれ以上行わないこと、護岸工事については干潟側を一切改変しない工法などを用いて施工する必要がある。工事の過程で重機を干潟側に一時的に乗り入れることだけでも大きな影響を及ぼすと考えられる。

【特記事項】

本種の和名の由来は「彼は誰」であり「カワタレ」と表記するのは誤りである(福田, 2012)。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. カハタレカワザンショウ. p. 53.in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 早瀬善正・木村昭一, 2017. 河和(三河湾)の内湾潮間帯の貝類相. ちりぼたん, 47(1-4): 28-42.
- 河辺訓受, 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. かきつばた, (26): 21-24.
- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)